

『中性』 作：ポチ子

『中性』 作：ポチ子

中性的、

それはどっちなかに寄っている。

男っぽいか、

女っぽい。

見た感じのままの性別が、

そのまま正解だ。

中性的があることで、

私は真ん中がないことが知る。

男か、女だし。

右か、左だ。

丁度真ん中なんて無いのだ。

真ん中って、

どっちの良いところも取ったような、

どっちにも偏っていないような、

全ての正解になれるような、

そんな希望を匂わせる。

そうやって、

私たちが誘い出すのだ。